

耐震診断の結果の公表【要安全計画記載記載建築物(防災拠点建築物)(佐賀市が所管する分)】

■佐賀県地域防災計画における災害拠点病院

No.	建築物の名称	建築物の位置	建築物の用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
1	国立大学法人 佐賀大学医学部 附属病院 外来診療棟	佐賀市鍋島五丁目1番1号	病院	(2)一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(1990年版)	Is/Iso = 1.06 CTU・SD = 0.68	耐震改修済		Z=0.8,G=1.0 U=1.25

■市地域防災計画における指定避難所のうち、耐震改修促進法第15条第2項に該当する建物

No.	建築物の名称	建築物の位置	建築物の用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
1	勸興小学校	佐賀市成章町3番16号	小学校	-	-	-	-	-
	普通教室棟			(3)一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001年版)	Is/Iso = 1.04 CTU・SD = 0.31	耐震改修済	Z=1.0,G=1.0 U=1.0	
	管理教室棟				Is/Iso = 1.04 CTU・SD = 0.39	耐震改修済		
2	西与賀小学校	佐賀市西与賀町大字厘外1437	小学校	-	-	-	-	-
	普通教室棟			(3)一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001年版)	Is/Iso = 1.04 CTU・SD = 0.74	耐震改修済	Z=1.0,G=1.0 U=1.0	
	管理特別教室棟				Is/Iso = 1.02 CTU・SD = 0.73	耐震改修済		
3	金立小学校	佐賀市金立町大字千布2144-1	小学校	-	-	-	-	-
	普通教室棟 特別教室棟			(3)一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001年版)	Is/Iso = 1.07 CTU・SD = 0.62	耐震改修済	Z=1.0,G=1.0 U=1.0	
4	新栄小学校	佐賀市新栄東二丁目6番34号	小学校	-	-	-	-	-
	普通教室棟 1-1			(3)一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001年版)	Is/Iso = 1.07 CTU・SD = 0.46	耐震改修済	Z=1.0,G=1.0 U=1.0	
	普通教室棟 1-2				Is/Iso = 1.05 CTU・SD = 0.40	耐震改修済		
5	諸富南小学校	佐賀市諸富町大字為重920番地	小学校	-	-	-	-	-
	普通教室棟			(3)一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001年版)	Is/Iso = 1.08 CTU・SD = 0.42	耐震改修済	Z=1.0,G=1.0 U=1.0	

附表 耐震診断の評価の結果と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価

耐震診断の方法の名称		構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性		
		I	II	III
(1)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(1996年版、2011年版)	$I_s < 0.3$ 又は $q < 0.5$	左右以外の場合	$0.6 \leq I_s$ かつ $1.0 \leq q$
(2)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(1990年版)	$I_s/I_{so} < 0.5$ 又は $C_T \cdot S_D < 0.15$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{so}$ かつ $0.3 \leq C_T \cdot S_D \leq 1.25$ $1.25 < C_T \cdot S_D$
(3)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{so} < 0.5$ 又は $C_{TU} \cdot S_D < 0.15 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{so}$ かつ $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_{TU} \cdot S_D$
(4)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(1997年版) ※鉄骨が充腹材の場合	$I_s/I_{so} < 0.5$ 又は $C_T \cdot S_D < 0.125 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{so}$ かつ $0.25 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_T \cdot S_D$
(5)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(1997年版) ※鉄骨が非充腹材の場合	$I_s/I_{so} < 0.5$ 又は $C_T \cdot S_D < 0.14 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{so}$ かつ $0.28 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_T \cdot S_D$
(6)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2009年版) ※鉄骨が非充腹材の場合	$I_s/I_{so} < 0.5$ 又は $C_{TU} \cdot S_D < 0.14 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{so}$ かつ $0.28 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U \leq C_{TU} \cdot S_D$

I. **大規模**の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。

II. **大規模**の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。

III. **大規模**の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。

(※)震度6強から7に達する程度の大規模の地震に対する安全性を示す。

いずれの区分に該当する場合であっても、違法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限りは、震度5強程度の中規模地震に対しては損傷が生ずるおそれは少なく、倒壊するおそれはない。